

市政トピックス

外国人住民の相談窓口を一元化 —仙台多文化共生センターが開設

6月1日に、仙台国際センター交流コーナーの機能を拡充し、新たに「仙台多文化共生センター」として開設しました。仙台で暮らす外国人の一元的な相談窓口として、さまざまな生活情報の提供や相談などに幅広く応じます。

仙台多文化共生センターでは、従来の英語、中国語に加え、新たに韓国語、ベトナム語、ネパール語の相談員を配置。また、74言語対応の自動翻訳機も配置し、多様な言語に対応できるようにしています。



市政トピックス

新時代をすすめたちが が祝う—仙台・青葉まつり開催



35回目を迎える仙台・青葉まつりが、5月18日・19日の2日間開催され、晴れ渡る空のもと、約7万人が初夏の祭りを楽しみました。初日の「宵まつり」では、新たに国分町通などを会場に加え、市内各所ですずめ踊りの演舞を披露。色とりどりの扇子を持った踊り手が元気に飛び跳ね、新緑の杜の都を舞いました。2日目の「本まつり」の見どころは、仙台・青葉まつりの華「時代絵巻巡行」。新しい時代を祝う一斉礼砲に続き、伊達政宗公の御霊をのせた青葉神社の神輿渡御や、豪華絢爛な11基の山鉦が、東二番丁通や定禅寺通な

市政トピックス

した。また、仙台出入国在留管理局や宮城県行政書士会などの関係機関と連携した、在留資格や労働法律、行政手続き等に関する予約制の専門相談会を開催しています。ほかにも、「仙台生活便利帳」をはじめとする、仙台での暮らしに役立つパンフレットなどを多言語で提供するほか、引越越しの手続きや外国語対応の医療機関の紹介など、身近な生活相談も受け付けています。今後とも、地域社会の一員としてともに安心して暮らしていただけるよう支援していきます。

市政トピックス

定禅寺通パブリック ミーティング—さらなる魅力向上へ

定禅寺通の活性化を推進するため、町内会やまちづくり団体などで設立され、市と仙台商工会議所が事務局を務める定禅寺通活性化検討会が、6月9日に初の市民公開イベント「定禅寺通パブリックミーティング」を開催し、市民の皆さんと定禅寺通周辺の魅力を高めるアイデアを考えました。前半では、株式会社グラントレ

市政トピックス

手打ちそばに舌鼓— 仙台秋保そばフェス 2019

秋保は、古くからそばの生産地として知られる「そばの郷」。そば文化を通し、地域活性化や交流促進を図るため、平成28年度から行われている「仙台秋保そばフェス2019」が、6月8日・9日に秋保市民センターで開催されました。

8日は素人そば打ち段位認定会、9日は全日本素人そば打ち名人大会東北予選を開催。2日間合わせて77人のそば打ち愛好家の皆さんが、自慢の腕を競い合いました。また、当日は、秋保産そば粉を使用した手打ちそばが500円で提供され、大勢の人が手打ちの味を堪能していました。



市政トピックス

市民防災の日にシエイクアウト訓練実施

6月12日の「市民防災の日」に、仙台市総合防災訓練を行いました。自分の身を自分で守る「自助」の取り組みを確認するシエイクアウト訓練(身体保護訓練)には、約5万7千人が参加。午前9時に地震が発生したと想定し、参加者は家庭や学校などで「まず低く」「頭を守り」「動かない」という3つの行動を実践しました。また、当日は宮城県消防学校で、自衛隊や消防、災害時応援協定締結団体など20団体による実動訓練も実施。倒壊建物からの住民の救



▲小さき花幼稚園でのシエイクアウト訓練。学校や保育所、企業などさまざまな場所で訓練が行われました

出・救護、物資の輸送・集配などの訓練を行いました。訓練には、地域で防災活動に取り組む「仙台地域防災リーダー(SBL)」の方々も参加し、実践的な訓練を通して「公助」と「共助」の取り組みや相互の連携を確認しました。

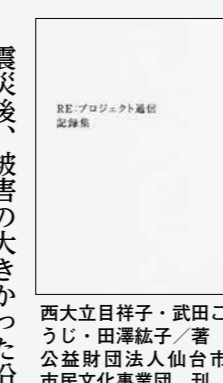
市政トピックス

仙台—バンコク間の 国際定期便が5年ぶりに再開

平成26年4月より運航を休止していた、仙台—バンコク間の国際定期便が、5年ぶりに就航されることになりました。近年、タイからの観光客が増加しており、市では今年2月に郡市長がタイ国際航空を訪問するなど、定期便の再開に向けて働きかけを行ってきました。定期便は10月から週3便運航する予定で、観光や物流、ビジネスなどさまざまな分野での交流拡大が期待されます。

3.11 震災文庫を 読む

「RE:プロジェクト通信 記 録集」



東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりの本を「紹介します」。

「本があるから Book! Book! Sendai Book! Book! Miyagi 2008-2018」

Book! Book! Sendai daiは「街に本との出会い」を増やそうと活動している団体です。最初の頃はいろんな方とイベントを企画するのが刺激的で、ただその出会いを楽しんでいました。その活動が変わったのは震災後でした。自分たちと街を「本」を通して、考えたいと思えました。この本では、震災後にできた「本と出合える場(ブックカフェや古書店など)」を訪ねた記録と、かつて街の中にあつた書店の歴史、仙台が仙台と呼ばれるようになった頃の庶民文化の記録を後世に引き継ぐために、生涯をかけて印刷物を収集し発信してきた渡邊慎也さんの足跡を辿っています。

震災後、被害の大きかった沿岸部に暮らしていた方たちを訪ね、かつての暮らしの話を聞き、その話をライター西大立目祥子さんがまとめ、ぼくはそこから詩を紡いでいきました。震災がもたらした悲しみとはなんだったのか、そのことに向き合うことは、数字にはできない、それまで当たり前だと思っていた暮らしの小さなひとつひとつが失われていくことではないかと思いました。暮らしには言葉があり、会話があります。会話をすることの大切さ、会話を続けることの難しさ、取材を重ねながらそのことを改めて学びました。

「本があるから Book! Book! Sendai Book! Book! Miyagi 2008-2018」

●紹介した本は、市民図書館で「見ただけです」 問市民図書館 ☎261・1585